

かながわ水源環境保全・再生の 取組の現状と課題

—水源環境保全税による特別対策事業の点検結果報告書—

(平成20年度実績版)

平成22年2月

水源環境保全・再生かながわ県民会議

目 次

はじめに	0 - 2
点検結果の見方	0 - 5

各事業の点検結果

1 水源の森林づくり事業の推進	1 - 1
2 丹沢大山の保全・再生対策	2 - 1
3 溪畔林整備事業	3 - 1
4 間伐材の搬出促進	4 - 1
5 地域水源林整備の支援	5 - 1
6 河川・水路における自然浄化対策の推進	6 - 1
7 地下水保全対策の推進	7 - 1
8 県内ダム集水域における公共下水道の整備促進	8 - 1
9 県内ダム集水域における合併処理浄化槽の整備促進	9 - 1
10 相模川水系流域環境共同調査の実施	10 - 1
11 水環境モニタリング調査の実施	11 - 1
12 県民参加による水源環境保全・再生のための新たな仕組みづくり	12 - 1
○ 12の特別対策事業の総括（まとめ）	13 - 1

付表・図

・ 水源環境保全・再生事業の対象地域図	14 - 1
・ 平成19～20年度 市町村別事業実績一覧（市町村事業）	14 - 2
・ 水源環境保全・再生かながわ県民会議名簿	14 - 4

はじめに

1 点検結果報告書(平成21年3月)の経緯・趣旨

「水源環境保全・再生かながわ県民会議」(以下「県民会議」)は、「かながわ水源環境保全・再生実行5か年計画」(以下「5か年計画」)に位置付けられている12の特別対策事業について、実施状況を点検・評価し、その結果を県民に分かりやすく情報提供する役割を担っている。

そこで、第1期の県民会議委員(任期:平成19~20年度)は、平成21年3月に当該期間を総括する趣旨で、各特別対策事業とその最終目標である「良質な水の安定的確保」という効果を評価する道筋を「各事業の評価の流れ図(構造図)」として整理して、平成19年度の事業実績を中心に点検結果報告書(以下「前回報告書」)を作成した。

今後の点検・評価については、20年度以降の事業についても、県民会議は点検する用意があったとした。

《県民会議の所掌事項》

- (1) 水源環境保全・再生施策の評価及び推進に関すること。
- (2) 水源環境保全・再生施策の県民への情報提供に関すること。

2 今回の点検結果報告書(平成20年度実績版)の方針

前回の点検結果報告書は、4つの視点(①事業進捗状況から見た評価、②モニタリング調査結果に基づく評価、③事業モニター意見、④県民フォーラム意見)から、平成19年度の事業実績を中心に、多面的な点検を行ったが、今回の点検結果報告書は、前回と異なり、第2期の県民会議委員の任期(平成21~23年度)の途中であるため、次の点に基づき、20年度の事業実績の更新を中心に、中間の報告書を作成するものである。

(1) 平成20年度の事業実施状況等の記載

平成20年度の事業実施状況、進捗状況、予算執行状況を記載するとともに、事業進捗状況から見た評価を行う。

(2) 平成20年度のモニタリング調査等の記載

平成20年度のモニタリング調査実施状況を記載するとともに、モニタリング調査結果に基づく評価を行う。

(3) 事業モニター結果の削除

第2期県民会議による事業モニターは、平成21年度後半に特別対策事業(直接的な効果が見込まれる9事業)を対象に実施するため、今回報告書には掲載しない。

(4) 県民フォーラムの削除

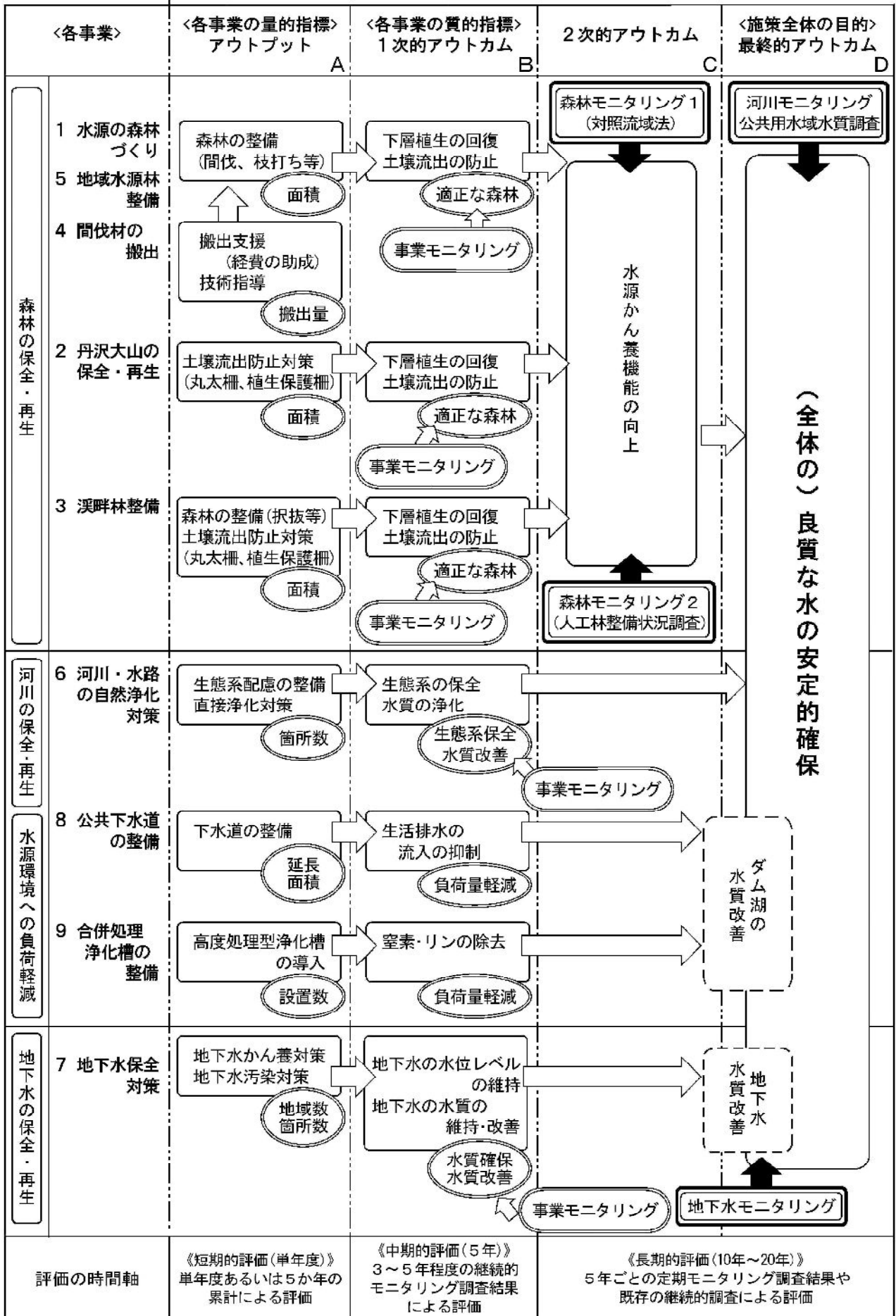
第2期県民会議による県民フォーラムは、平成21年度後半に2地域(横浜・川崎地域、湘南地域)を対象に実施するため、今回報告書には掲載しない。

(5) 総括

前回報告書は、①事業進捗状況から見た評価、②モニタリング調査結果に基づく評価、③事業モニター意見、④県民フォーラム意見の4つの視点の評価に基づき、総括

コメントを作成したが、今回報告書は平成20年度の事業実績・進捗を中心に、点検・報告する。

■各事業の評価の流れ図（構造図）



■ 点検結果の見方

5か年計画に位置付けられている12の特別対策事業ごとに、次の1～11の項目を共通事項として記述した。

1 ねらい／ 2 目標／ 3 事業内容／ 4 事業費

5か年計画の各事業の「ねらい」～「事業費」を転記した。

5 事業実施状況

予算執行実績金額を記載し、整備量など事業量の数値目標のあるものは、事業量の実績を、数値目標のないものは、事業内容を記載した。

記載数字はすべて平成19～20年度の実績とした。

6 5か年計画進捗状況

整備量などの数値目標のある事業についてのみ、「5か年計画の目標」、「平成19～20年度の実績」、「平成21年度の計画」を記載し、「目標に対する進捗状況」を帯グラフとして示した。

また、特異な状況を示すものは、その原因等の説明を記載した。

7 予算執行状況

「5か年計画における5年間の事業費の新規必要額」、「平成19～20年度の予算執行実績金額」、「平成21年度の予算額」を記載し、「5年間の計画必要額に対する予算執行状況」を帯グラフとして示した。

また、特異な状況を示すものは、その原因等の説明を記載した。

8 事業進捗状況から見た評価

整備量などの数値目標のある事業について、平成19～20年度の事業量の実績に基づき、県の総合計画「神奈川力構想」の「戦略プロジェクトの取組み状況の算出方法」を参考にした評価基準等に基づき、A～Dの4つのランクで評価を行うとともに、特記事項を記載した。

A～Dの4つのランク：各事業における「事業進捗状況から見た評価」の基準

※ 次の基準に基づき、A、B、C、Dの4つのランクで評価する。		
(1) 年度ごとの数値目標を設定している事業 (4①、5④)	平成20年度の実績（累計）	ランク
	2年間の目標の100%以上	A
	2年間の目標の80%以上100%未満	B
	2年間の目標の60%以上80%未満	C
	2年間の目標の60%未満	D
(2) 5年間（平成19～23年度）の数値目標を設定している事業（1①②、5①②③、6①②、8、9①②）	平成20年度の実績（累計）	ランク
	目標の40%以上	A
	目標の32%以上40%未満	B
	目標の24%以上32%未満	C
	目標の24%未満	D

(3) 4年間(平成20～23年度)の数値目標を設定している事業(2①、3②③④)	平成20年度の実績(累計)	ランク
	目標の25%以上	A
	目標の20%以上25%未満	B
	目標の15%以上20%未満	C
	目標の15%未満	D
(4) 数値目標の設定がない事業(2②③、3①、4②、7①②③④、10、11、12) A、B、C、Dの4つのランクでの評価はしない。 (事業の進捗率によって評価できない上記項目については、実施の有無で評価する。)		

9 モニタリング調査実施状況

各事業の「ねらい」の実現状況を把握するための質的な指標を記載し、その達成度を見るためのモニタリング調査を記載した。

個別事業においてモニタリング調査を行っている場合は、その方法、結果を記載し、行っていないものは考え方を示した。

また、モニタリング調査方法等について意見のあるものは記載した。

10 モニタリング調査結果に基づく評価

実施したモニタリング調査結果に基づき、事業の効果が評価できるものは行い、できないものについては考え方を示した。

また、評価するうえでその基準や参考とするデータがある場合は、それを記載した。

11 総括

上記の点検結果を踏まえて、各事業の総括コメントを記載した。

各事業の点検結果